

今月の株式市場見通し

欧州金融危機に端を発した、極端なリスク回避相場は、各国の財政並びに資金調達面の協調により、一旦は収束を迎えました。しかしながら、ここにきて、改めて世界のファンダメンタルズ（景気）を覗いてみると、①欧州経済が世界景気に対する阻害要因として浮上 ②米国の住宅投資の減速 ③インフレ基調の弱まりの兆候 が散見され、このところ好調だった個人消費並びに設備投資に（景気の牽引役が）素直に移行しないのではないかと懸念が台頭し、長期金利の低下、株式市場の下落となって現れております。

また、EUにとって輸入額の約2割を占める中国も、金融引き締め並びに不動産規制により、従来の極端に高い成長力を安定化させようとしており、これに人民元改革の動向及びバルチック海運指数の急落も加味され、市場を一層不安定なものとしております。

暫くは、上述のような来年度に向けての景気後退懸念ならびに各国金融規制法案の趨勢を材料に変動率の高い市場が想定されますが、所以、「リーマンショック後にうった景気刺激策の終焉にともなう反動減」と分析され、「緩やかな成長」に依拠した市場形成がなされていくものと思料されます。

従いまして、株式市場は、7月中旬から始まる第2四半期企業業績の発表（上方修正は少ないものの改善傾向）を受けて、取引レンジの下限から上限へと緩やかに切り上げていくものと想定しております。また、先進国の出口戦略の時間軸の修正（ゼロ金利の長期化）に伴う金余りの継続は、投資資産の大きなサポート要因といえます。

株 練 場

2010年
7月号

西村証券
本店営業部

TEL075-221-9390

株練場コラム

年初に発売されベストセラーになった「超訳 ニーチェの言葉」を読んでみた。ニーチェはドイツの哲学者で、有名な著作として「ツァラトゥストラはかく語りき」が知られている。同名のクラシック曲は映画「2001年宇宙の旅」のテーマソングにもなっている。そういえば昔、作家の野坂昭如氏が某CMで“ソクラテスカプラトンか、ニーチェカサルトルか”と歌っていたのを憶えている方もいるだろう。

一般的にニーチェ＝ニヒリストのレッテルから暗いイメージで見られているようであるが本当はそうではなく、この本には現実的な真理を突いたニーチェの言葉が平易な短文集として編纂され、それがサラリーマンを中心に自己啓発本として広く読まれたようである。

内容は、己について～美についてまで10章に分かれ、232の言葉で構成されている。読者はニーチェの言葉から力強い生き、高みを目指す意志を感じとり、いわば人生訓・処世訓として心がけようと思うのだろう。

私自身もその言葉の幾つかに強い刺激を受け、これまでの人生を振り返ったり、これからの生き方を考える良い機会を与えられた。一つでもここで紹介したいところだがそうもいかないのが残念である。

フリードリヒ・ニーチェ（1844～1900）について、その思想がナチズムの思想の土台になった等の見方があるが、実際にその言葉に触れてみて、そういう印象は持たなかった。哲学者という抽象的で難解な言葉を駆使するものだが、ニーチェの哲学は決して難しくない。その鋭い洞察力から生まれた言葉に接し、やはり自分の頭で考えてみることの重要性を改めて感じた。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町 65 番地

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号 加入協会：日本証券業協会 主な事業：金融商品取引業

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮下さい。